

# 知能情報工学実験演習 II 離散構造モデリング

## 困ったときの Tips

### 全般

- コンパイルは”make”でバッチ処理を行う
- 異なる環境で実行してできたファイルが邪魔なときは”make clean”で生成ファイルを削除できる (そのように Makefile に設定してあるので、後々のために確認しておくが良い)
- 実行方法は”(実行ファイル名) input.txt”に統一してある (実行ファイル名が分からない場合は Makefile を参照すること)
- 各デコーダは”make decode”で作成可能
- Makefile や func.h については自分で作成した関数名や引数等に適宜修正して使用すること

### 課題 1, 2

- 作成するのは runlength 関数だけ
- runlength 関数の返り値はポインタであることに注意
- char 型は 7bits なので、8bits で 256 まで数えるには unsigned char 型として宣言する
- ”char count = 123”のように、char 型を整数値としても扱うことができる

### 課題 3, 4

- 作成するのは mysort 関数だけ
- 2次元配列 string array に単語が格納されている
- 文字列の比較は strcmp 関数を用いる
- 課題 3 では”ソート”=”ポインタの付け替え”なので、自分で malloc を行なう必要はない (はじめから確保されている領域で充分できるはず。)

## 課題 5, 6

- main 関数を読み取り、補完する
- 1 次元配列 string に文章が格納されている
- 最低でも一回は、自分で malloc 関数を用いて大きな領域を確保する必要があるはず
- Makefile とヘッダファイル、及び実装方法によっては mysort ファイルを補完する必要があるかもしれない
- 文字列の末尾に特定の文字列を加える関数として、strcat 関数と strncat 関数が存在する
- 文字列をコピーする関数として、strcpy 関数と strncpy 関数が存在する
- 文字列の比較は strcmp 関数か、必要であれば strncmp 関数を用いる
- ファイルに一文字だけ出力する fputc 関数というものも存在する